



新生児を抱く家族と一緒に記念植樹を行う関係者 = 杭瀬川左岸堤（大垣市多芸島地先）

『我が子の健やかな成長願い、記念植樹！』 大垣で千本夢桜事業

- 大垣市内一円を桜並木でつなぐ四季の回廊「千本夢桜」事業の一環として、新生児の誕生を記念した記念植樹が2月28日（土）と3月1日（日）の両日、同市多芸島地先の杭瀬川左岸堤防で行われた。昨年1月1日以降に誕生し、申し込みのあった新生児と保護者約85組が参加し、我が子の成長を桜に託し苗木を植樹し、記念撮影が行われた。

気温7℃。冷たい雨が降り続く中、午前10時から行われた1日（日）の記念植樹に、新生児を抱いた41組の家族が出席。冒頭、小川敏・大垣市長は「今日、皆さんに植樹していただくのは“カンザクラ”で、3月上旬頃に咲く桜。植樹していただいた桜が、お子さんと同じように、すくすくと育つことを願っている」と挨拶し、今後も子育て日本一のまちづくりについて力強く推し進めていくことを強調した。また、来賓の石田仁・大垣市議会議員は「地域の皆さんと一緒にこの桜をしっかりとお世話させていただく。この場所が、子供の成長とともに、市民の憩いの場になることを期待したい」と思いを語った。

小川市長、石田市議会議員、細野揖斐川第二出張所長、野村連合自治会副会長がスコップを手に土を掛け記念植樹を行い、その後、参加者も続いた。

「千本夢桜」事業は総延長約50キロ、1万本にも及ぶ桜回廊を整備するもので、大垣市によると現在までに、既存の木を含めカンザクラやソメイヨシノなど約37キロで植えられているという。

皆さんの笑顔、写真に撮らせていただきました！



『冷たい雨にも負けずゴール狙う！』

杭瀬川河川敷で少年イレブン熱戦

- 第24回ぶんけい杯県少年サッカー大会（県少年育成連盟・岐阜新聞・ぎふチャン主催、文溪堂協賛）が3月1日（日）、杭瀬川河川敷のスポーツ公園で行われ、前日の1次リーグで勝ち上がった8チームが決勝トーナメントで戦い、王座を目指して熱戦を繰り広げた。

冷たい雨が降り、濡れた芝生に苦戦しながら、少年イレブンたちはゴールを目指し必死にボールを追いかけ、グラウンドに駆け付けた父兄らが熱い声援を送っていた。



雨の中、果敢にゴールを攻める選手たち 二杭瀬川スポーツ公園

■出張所コメント

記念植樹イベントの帰り道、杭瀬川河川敷に位置する杭瀬川スポーツ公園に立ち寄り、河川空間の利用実態について確認してきました。私も、若かりし頃、同公園で楕円形のボールを追い掛け、また、現役引退後は、高校生やちびっ子達の指導・育成に携わってきました。

同公園は、大垣市によって管理され、通年にわたり数々のレクリエーションやスポーツ活動が盛んに行われるなど、現在、年間4万人を超える方々に利用される憩いの場となっています。都市部に残された貴重なオープンスペースとして、今後も適正な利用・管理によって、心身の健全育成や健康増進に役立てていただくことを期待すると同時に、我々も河川管理者という立場の中で、同市が進める「子育て日本一のまちづくり」を支援していきたいと考えています。

揖斐川第二出張所長 細野貴司